

学会彙報（二〇二三年一月～六月）

◇二〇二二年度に提出された課程博士論文・卒業論文は次のとおりです。

一、大学院 課程博士論文

※論文名・氏名・リポジトリ非公開

二、文学部 卒業論文

※論文名・氏名・リポジトリ非公開

※論文名・氏名・リポジトリ非公開

仏教学会活動報告

◇卒業論文梗概発表会

一月十三日（金）午後四時三十分～

於 尋源講堂

発表会終了後に記念撮影を行った。送別懇談会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

◇研究発表例会

一月十九日(木) 午後四時三十分

於響流館(マルチメディア演習室)

「ダルマキールテイの増益に関する諸語の分類」

本学任期制助教 秦野貴生

「近代アムド地方(東北チベット)のボン教僧ウォンギャル

ヨンドン・プンツォクの事績」 本学教授 三宅伸一郎

◇新入会員歓迎講演会

五月十八日(木) 午後一時

於慶開館(K四〇四教室)

仏教学会会長 本学教授 三宅伸一郎氏

講題「蟻に施す方法―十八・九世紀ボン教僧による慈悲の実

実践―」

二〇二三(令和五)年度 仏教学関係講義題目

一、文学部仏教学科

演習

仏教学演習Ⅰ

仏教学演習Ⅱ

仏教学演習Ⅲ

仏教学演習Ⅳ

采翠 晃

新田 智通・上野 牧生

三宅伸一郎・DASH SHOBA

采翠 晃

山本 和彦・采翠 晃

概論

仏教学概論

采翠 晃・山本 和彦
新田 智通・戸次 顕彰

講義

大乘仏教入門

インド仏教思想論

中国仏教思想論

日本仏教思想論

中国仏教史

日本仏教史

箕浦 暁雄
上野 牧生
采翠 晃
R.FRHODES
倉本 尚徳

浄土教史概説

宗教史

インド学

現代仏教論

現代と真宗

死生学

生命倫理

人間関係学

地域仏教論

東館 紹見・平野 寿則
福島 榮寿・川端 泰幸
國賀由美子・大艸 啓
山田 恵文
小林 敬
上野 牧生
新田 智通
藤原 正寿
門脇 健
藤枝 真
谷口奈青理
三宅伸一郎

仏教学特殊講義1 (『華嚴経』十地品の研究) 織田 顕祐
 仏教学特殊講義2 (龍樹『十住毘婆沙論』の研究) 織田 顕祐
 仏教学特殊講義3 (インドの仏教遺跡と聖地巡礼) 中西麻一子
 仏教学特殊講義4 (仏教と社会) 新田 智通

実践研究

仏教文献基礎演習

戸次 顕彰・小川 直人

中西麻一子・本明 義樹

吹田 隆徳・松岡 淳爾

上野 牧生・藤井 了興

現代仏教演習

岸上 仁

地域仏教演習

DASH SHOBA

初期仏典を読む

新田 智通

浄土経典を読む

山田 恵文・本明 義樹

維摩経を読む

梶 哲也

法華経を読む

戸次 顕彰

欧文仏典を読む

小川 直人

仏教学特殊演習1・2

(『バガヴァッドギター』の精読)

村上 昌孝

仏教学特殊演習3・4 (パリー語仏典を読む)

DASH SHOBA

仏教学特殊演習5・6

(ツォンカパ『善説心髓』の理解を深める)

福田 洋一

臨床フィールドワーク

箕浦 暁雄

パリー語

DASH SHOBA

サンスクリット語
 古典チベット語

村上 昌孝
 三宅伸一郎

二、大学院仏教学専攻

基礎科目

仏教の視点

一楽 真

専攻交流演習

脇坂 真弥・福島 栄寿
 藤田 義孝

専攻科目

仏教学特殊研究Ⅰ (講義)

箕浦 暁雄・采翠 晃

仏教学特殊研究Ⅱ (文献研究)

新田 智通・采翠 晃

仏教学特殊研究 (演習)

箕浦 暁雄・山本 和彦

采翠 晃・三宅伸一郎

DASH SHOBA

選択科目

仏教学特殊研究 (論文指導)

箕浦 暁雄・山本 和彦

三宅伸一郎・DASH SHOBA

仏教学研究1・2

(サンスクリット原典テキスト校訂)

山本 和彦

仏教学研究3

(Development of Pure Land Buddhism in the Japanese Tendai)

School (日本天台宗における浄土思想の発展) R.FRHODES

仏教学研究 4 (Reading the *Zhaolin* [『肇論』を読む])

仏教学研究 5・6 (合同ゼミ)

采翠 晃・三宅伸一郎

箕浦 暁雄・DASH SHOBA

山本 和彦

インド学研究

山本 和彦

仏教学研究 (文献研究) 1・2

(チベット訳仏教文献の研究)

上野 牧生

仏教学研究 (文献研究) 3・4

(ツォンカパ『善説心髓』の研究)

福田 洋一

仏教学研究 (文献研究) 5・6

(『大般涅槃經』の研究)

織田 顕祐

仏教学研究 (特別セミナー)

(大乘仏教とはなにか―大乘仏教をめぐる歴史と解釈―)

下田 正弘・新田 智通

西本 祐攝

編集後記

『佛教学セミナー』第一一七号をお届けいたします。

今号では、本学仏教学科から山本和彦先生、新田智通先生、上野牧生先生からご執筆いただきました。また学外からは上野先生との共著者として中国蔵学研究中心の李学竹先生、さらに本学・元助教の堀田和義先生、秦野貴生先生からもご寄稿いただきました。執筆者の先生方に感謝申し上げます。

また本学仏教学会では、二〇二二年一月一六日に、東洋大文学名誉教授・森章司先生を講師としてお招きし、公開講演会を開催することができました。感染症拡大防止の観点から二〇二〇年・二〇二一年と中止を余儀なくされましたが、このたびは森先生に遠方よりお越しいただき、そしてその講演録を本誌に掲載することができました。ここに感謝を申し上げます。

二十八年間にわたる「原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究」に区切りをつけられた森先生からは、「釈尊伝研究から見た原始仏教の風景」と題して、釈尊の人間の側面と神秘的側面についてご講演いただきました。これは偶然にも本号掲載の新田先生の論文における問題関心とも重なるところです。いずれも、初期の聖典に描写される人間的な釈尊に対して、一方にある神秘的あるいは神話的・超人的な釈尊の姿を、私たちがどのような受け止めていくべきかという重大な問題に対する考察です。両先生の論考を併せてお読みいただけたらと思います。

ところで森先生はその講演の中で、本学の赤沼智善先生の

業績に言及されております。赤沼先生は近代仏教学の形成期においてパーリ仏教の研究をリードされ、その大きな業績の一つには『印度佛教固有名詞辞典』があります。この辞典の中の赤沼先生による「自序」によれば、この辞典は漢・巴・梵の仏典を精読する過程で丁寧カードをとる作業から始まったとされ、こうした作業を「蠅の労働のやうな仕事」であったと回想されています。

森先生は常々「赤沼先生がああ辞典をどのようにして作られたのか」「膨大なカードやノートがあつたはずで、ご自坊や大谷大学図書館など、どこかにカードなどが残っていたらぜひ見てみたい」とおっしゃっておられました。私も少し探してみましたが、いまだに見つかりません。ちょうどこの辞典の「自序」が書かれて刊行されたのは一九三一年、日本がああ不幸な戦争に突入するきつかけとなつた満州事変の年でした。一九三七年に赤沼先生は亡くなられ、一九四五年の終戦の年には赤沼先生のご自坊のある新潟県長岡市の中心部は空襲で焼け野原になりました。これが何か関係しているのでしょうか。

『佛教学セミナー』は、予定通りいけば来年二〇二四年度に第一二〇号の節目を迎えます。これを機に本学の仏教学の伝統と、そしていま仏教学研究に従事する私たちが未来に向けて為すべきことを明確にできたらと思います。

最後になりましたが、執筆者ならびに関係各位にあらためて御礼を申し上げます。(K.T.)